

# 校内研究活性化 プロジェクト研究通信



木々の緑が若草色に色づく、暖かな季節になりました。皆様、お元気でいらっしゃいますか。研究委員の皆様におかれましては、当センターで開催されました研修や研究会、研究発表大会などで大変お世話になりました。本研究を通じた皆様の学びや実践校での取組が充実している様子が、それぞれの場面で見受けられ、大変うれしく感じております。

さて、最終号であるプロ研通信第6号では、第7回研究会と第8回研究会における研究委員の皆様の気付きや学び、第67回研究発表大会の様子についてお伝えします。

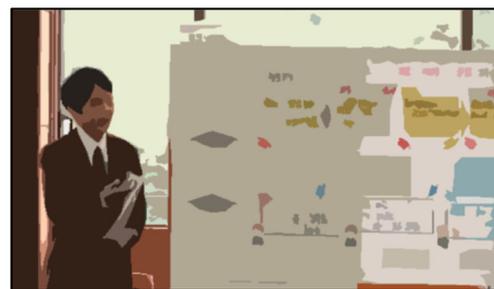
## 第7回研究会 概要

第7回研究会は、11月14日(木)に校内研究主任パワーアップ研修[小学校・中学校]〔第3回〕に参加するという形で行いました。実践紹介では、研究委員の先生方が作成された「校内研究省察ポスター」の紹介を通して、実践校における取組の成果や課題などを受講された先生方へと広げることができました。

## 第7回研究会の流れ

- これまでの校内研究の実践交流(研究協議)
  - ― 「校内研究プランシート」「省察ポスター」を基に―
- 令和6年度校内研究活性化プロジェクト研究  
実践校の「省察ポスター」紹介(実践紹介・研究協議)
- 1年間の校内研究のまとめと次年度に向けて研究主任の果たす役割(事例発表)
- 年度末の校内研究のまとめに向けて(研究協議)
  - ― 「校内研究プランシート」を基に―
- 自校の校内研究のまとめ(評価)と次年度に向けて(講義)
- 振り返り

参加者の皆様が、「校内研究プランシート」や「省察ポスター」を基に、今年度の前半の取組について交流しました。その後、研究委員の皆様から、プロジェクト研究会等で作成した「省察ポスター」を用いて、参加者の皆様に向けて実践校の取組を御紹介いただきました。



「省察ポスター」を用いた実践紹介の様子

## 実践紹介を振り返って

### 研究委員の気付きや学び

- ・自校の校内研究のねらいや成果を整理できた。実践紹介というアウトプットの重要性を改めて感じた。
- ・研究委員の先生方との交流や実践紹介での質疑を通して、自校の取組を多様な視点で考えることができた。
- ・実践紹介を通して交流することで、新たな気付きがあった。この経験を生かして、自校の校内研究の今後の方向性や目標について、自校の教職員に提案していきたい。
- ・プロジェクト研究会での学びを実践につなげ、成果と課題を明らかにして発表することで、自分の学びの整理になった。



## 第8回研究会 概要

第8回研究会は、11月25日(月)に行いました。最終回となる今回は、質問紙調査の分析結果についての考察や実践校における今年度の取組の振り返りを行い、次年度の校内研究の構想を練ったり、本研究の総括をしたりすることを通して、今後の展望をもつことができました。

## 第8回研究会の流れ

- 校内研究の取組を通じた教職員の変容から見る質問紙調査の分析結果の考察
- 「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう、校内研究のあり方
- 成果と課題の分析から見る次年度研究の構想
- トータルアドバイザー・専門委員より(指導助言)
- 振り返り



自校の教員の変容について共有している様子

## 質問紙調査の考察

### 校内研究の取組を通じた教職員の変容

はじめに、研究委員の皆様から見る校内研究の取組を通じた自校の教員のよい変容(学びの姿)について、キャリアステージに着目しながら具体的に振り返っていただきました。

第Ⅰステージ	第Ⅱステージ	第Ⅲステージ①	第Ⅲステージ②
<p>A先生 授業参観の中で、子どもが主体的に学びに向かう姿について学び、自分の実践に生かした。</p> <p>B先生 子どもが見通しをもって学習に向かう姿を目指して、今まで自分が経験したことのない方法を先輩教員から学び、実践した。</p> <p>C先生 グループワークで、自分の意見を述べたり、疑問点を質問したりすることが増えた。</p> <p>D先生 たくさんの情報を基に学びを深めてから実践を行い、成果と課題をしっかりと振り返って次の実践に臨んでいた。</p> <p>E先生 生徒の学びの姿をしっかりと見取ることを意識して実践を行っていた。</p> <p>F先生 担当教科の特性や指導観について考えるようになった。</p>	<p>G先生 子どもたちの興味関心を惹く課題の設定を意識した実践や授業で活用したツールを、学年や全校に広げていた。</p> <p>H先生 研修会で学んだことを、積極的に授業に生かそうとしていた。</p> <p>I先生 自分の強みを分析し、授業に生かそうとしていた。</p> <p>J先生 全校に共通する課題を把握し、その解決策を考えて校内研究会で提案した。</p> <p>K先生 生徒の学びの姿を基に、実践したことに対する成果や課題を考察できるようになってきた。</p> <p>L先生 生徒に身に付けさせたい力を考える際に、研究主題の観点を踏まえて考えるようになってきた。</p>	<p>M先生 他の教員の授業を進んで参観するようになった。</p> <p>N先生 生徒の深い学びにつながるように、言語活動の充実を図った授業展開を積極的に行うようになった。</p>	<p>O先生 指導案検討会の際に、授業者の想いを後押しする助言が増えた。</p>
		<p>【まとめ】</p> <p>このような教員の変容(学びの姿)は、今年度の校内研究の取組の成果を具体的に表すものになったのではないのでしょうか。</p> <p>また、これらを教員一人一人の探究的な学びの姿の事例として、他の教員と共有することを通して、個々の取組を更に広げ深めていくことで、より一層校内研究が活性化すると考えます。</p>	



## 質問紙調査の分析結果の考察

研究の始期(6月)と終期(11月)に実践校で実施した質問紙調査の分析結果を基に、各校の取組と関連付けながら考察をしていただきました。

### (1) 教職員の変容について

教職員対象質問紙調査は、「今年度の校内研究の取組が自分自身の

考え方や行動を変容させるものであったか」について、「変容的学習尺度」を用いて調査を行いました。

分析の結果、回答者全体の得点の平均に有意な差は見られませんでした。が、キャリアステージごとに分析したところ、第Ⅱステージにおける「パースペクティブ(ものの見方)の変容」について、得点が有意に上昇したことが分かりました。そして、この結果になった要因を研究委員の皆様と考察しました。

#### 研究委員の考察

1学期と比べて仕事にゆとりが生まれてきて、自分なりに考えて挑戦しようという気持ちが増してきた。

校務分掌等、担っている役割による学びが校内研究とつながり、実践に生かされている。

実践や研修などを重ねる中で様々な知識や情報を得ることで「やってみよう」という気持ちが出てきている。

第Ⅰステージの教員から頼られたり、質問されたりすることが刺激になっている。

他の教員の実践を参観する中で、自分が挑戦したいことを考えるようになってきている。

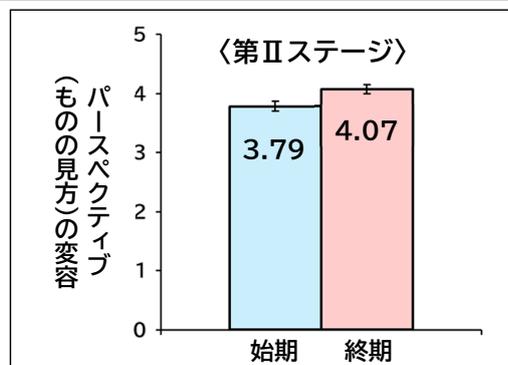
実践を重ねる中で、子ども一人一人に対する理解が深まり、子どもの学びの姿をより具体的にイメージできるようになっている。

質問紙調査の分析結果(量的な資料)について、各実践校の校内研究主任である研究員の先生方が見取った教員の学びの姿の実際(質的な資料)と関連付けることで、より説得力のある考察となりました。



#### 「変容的学習尺度」の項目と因子

項目	因子
1 それまでとは異なる視点を獲得したことがあった。	パースペクティブ (ものの見方)の変容
2 自分のものの見方が大きく変わったと感じることがあった。	
3 それまで理解できなかった新しい価値観を感じるがあった。	
4 自分の考えと違う意見に接し、葛藤を感じるがあった。	混乱的ジレンマ
5 自分と異なる考え方に対して、納得できないとかんじるがあった。	
6 様々な人の考えや価値観にふれて、モヤモヤしたことがあった。	自己省察
7 自分の中に思い込みや決めつけがあると感じるがあった。	
8 自分の考え方が偏っていると感じるがあった。	



第Ⅱステージの「パースペクティブの変容」

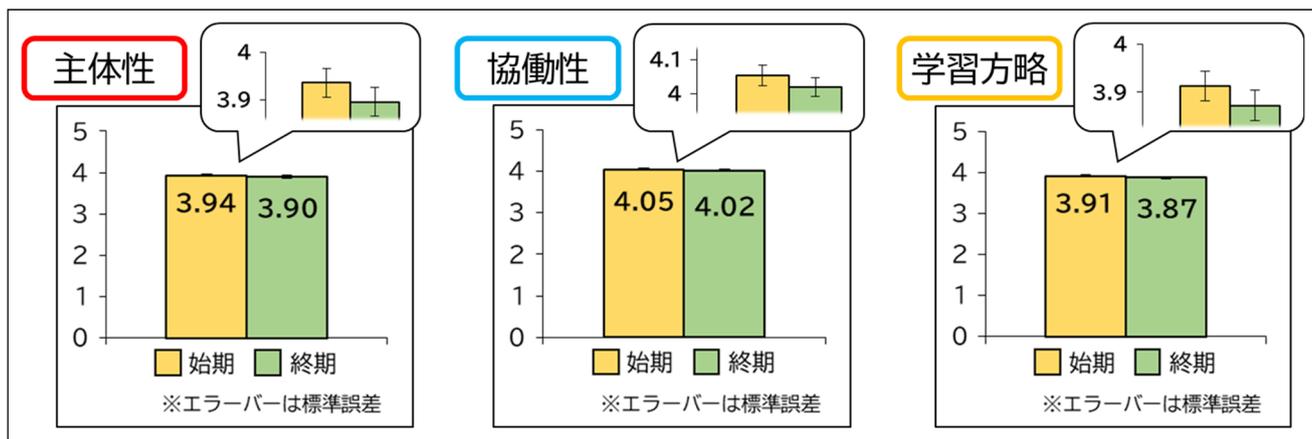
### (2) 児童生徒の変容について

児童生徒対象質問紙調査は、「校内研究の取組が、児童生徒の主体的に学習に取り組む態度が向上するものであったか」について、「主体的学習態度尺度」を用いて調査を行いました。

#### 「主体的学習態度尺度」の項目と因子

項目	因子
1 他の人に指示されてから行うよりも、自分で決めてやろうとしている。	主体性
2 ペアやグループでの話し合い活動では、自分の意見を言うようにしている。	
3 授業などで発言する時間や場面でなくても、自分の考えをもつようにしている。	
4 他の人と違う意見であっても、自分の意見を言っている。	
5 物事に対して積極的に取り組んでいる。	
6 活動するときに、友達と協力して取り組むようにしている。	協働性
7 友達の考えが自分の考えと違っていてもすぐに否定しないで、よさを見つけようとしている。	
8 話し合いの場面では個人の利益を優先するのではなく、みんなの幸せが実現するやり方を探したり、意見を出そうとしている。	
9 みんなの意見をもとに、さらに新しいやり方や考えを創りだそうとしている。	
10 友達の意見を取り入れ、自分の考えを発展させている。	
11 物事に対して見直しをもって考えるようにしている。	学習方略
12 すでに習ったことと新しく習ったことを結び付けて考えるようにしている。	
13 新しいことを覚えるときには、自分の知っていることと結び付けて覚えるようにしている。	
14 新しく聞く情報が本当に正しいかを考えるようにしている。	
15 問題に対して自分の知識や能力を、どのように活用すればよいかを考えるようにしている。	

分析の結果、回答者全体の得点の平均に有意な差は見られませんでした。



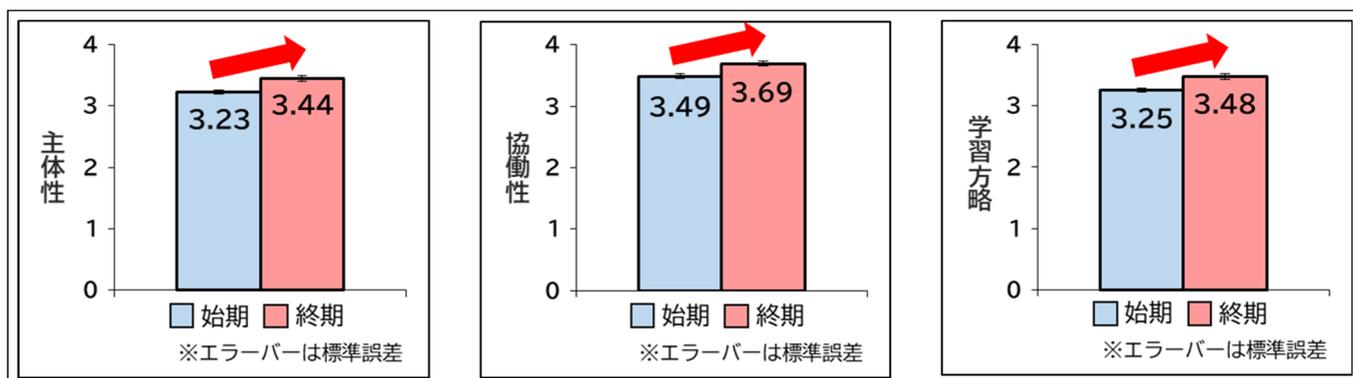
回答者全体における「主体性」「協働性」「学習方略」の分析結果

しかし、研究会の中で、研究委員の先生から、



年度当初と比べ、児童生徒の学びの姿には全体的に変容が感じられる。

という御意見がありました。そこで、研究会後に、始期の平均得点を基準にして、回答者を「平均より高い得点のグループ(高群)」と「平均より低い得点のグループ(低群)」に分けて更に分析を行いました。分析の結果、低群はいずれの因子の得点も有意に上昇したことがわかりました。このことから、実践校における校内研究の取組は、特に低群に対する主体的に学習に取り組む態度の向上に効果があったと考えられます。



低群における「主体性」「協働性」「学習方略」の分析結果

また、研究会の中では、今年度の児童生徒の学びの姿を振り返って、次のような御意見がありました。

研究委員の振り返り

自己評価の力が十分に備わっていない児童生徒もいるのが要因ではないか。

教師が手立てを講じることは大切だが、子どもが主体的に学習することを主軸に置かないと、教師が主役の授業になる恐れがある。

年単位で捉えると少しずつ成果が現れてくるのがわかる。継続して実践を積み上げていくことが変容の鍵になると考える。



数年単位など、長い期間で捉えると少しずつ児童性の学びの姿の変容が実感できる。

継続研究によって年々少しずつ素地が培われていくが、それによって変容を自覚しづらいのではないか。

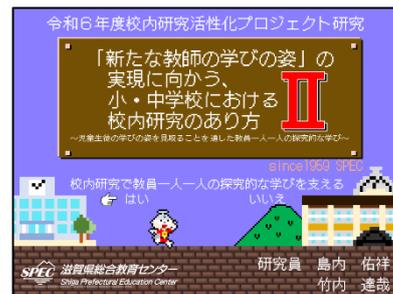
指導者から見ると力が身につけてきたと感じるが、なぜ児童生徒の自己評価が変わらないのだろう。

今年度、本研究では様々な統計的手法を用いて質問紙調査の分析を試みました。振り返ると、質問項目(尺度)や回答者の分類方法等、改善の余地はまだあると考えています。さらに、分析結果を基に成果や課題を考察する際の視点について更に深めていく必要があると感じました。



## 第67回研究発表大会

2月14日(金)に当センターにおいて第67回研究発表大会が開催されました。本研究の発表には、91名の方に御参加いただきました。発表の中で、研究委員の皆様による実践発表の時間を設けました。今年度の実践校における取組と、成果や課題をお伝えいただくとともに、参加者との交流を通して校内研究の活性化に向けた探究の時間となりました。参加者の皆様には、たくさんの御感想・御意見をいただきました。その一部を御紹介します。



- 教職員の意識の変容は難しいが、やり方次第で十分可能だといくことを学ばせてもらいました。
- 校内研究を進めるにあたって、教員にとっても安心できる居場所であることが重要であることを再認識できた。
- 一人一人が当事者意識をもって実践するための研究会のコーディネートなどについての工夫を学ぶことができた。
- キャリアステージごとのグループ編成や分析はとても興味深いと思いました。
- まずは、目指す子どもの姿を全職員で大切にしていかなければいけないと思いました。
- どの教師も問いをもち、目標があることで日々の授業を改善していこうという自覚が生まれるということを学んだ。
- 四つのプロセスを軸とした取組のお話を聞き、各過程において何をすればよいのか知ることができた。
- データを細かく分析していて、教員の変容に関する内容がとても分かりやすかったです。
- 児童が学びの過程を記録することが大切のように、校内研究でもそれぞれの教師が学びの足あとを残し自己省察できるようにすることが大切だと思いました。
- 教員のキャリアステージごとの校内研究の活性化への視点や手立てが印象的だった。



## プロ研通信第6号 編集後記

研究発表大会を終え、研究委員の皆様と共に創り上げてきた本研究に一区切りがつけました。研究発表大会のアンケートの中には、「実践校の取組をもっと聴きたかった」という御意見も多数ありました。当センターでは、研究論文や研究成果物等を通して、各実践校で御尽力いただいた取組の一部を県内全域に発信し、広げていきます。研究委員の皆様におかれましても、今年度の成果や課題を生かしていただきながら、校内研究の更なる活性化に向けて、探究を続けてくださると幸いです。

改めて、この一年間を振り返ると、プロジェクト研究会をはじめ、指導案検討会や授業の参観、県外視察など、研究に関わってたくさんの場面でお世話になる中で、研究委員の皆様の主体的な姿勢に刺激を受けながら、私たち研究員も学びを深めることができました。この経験をしっかりと次につなげつつ、更に学びを深めたいと考えています。

また、どこかの学びの場で再会できる日を楽しみにしています。一年間、ありがとうございました。

